

【基本目標1】子育て・子育て安心戦略 ～自然減の抑制～

■基本目標

項目・指標等	基準数値概要						H31 目標数値	測定可能 頻度	H27				H28				H29				H30				課題または達成できない原因	今後の取組	指標の適否	
	単位	基準数値	計算基準	計算目標	基準年(年度)	年/年度			実績値	達成率	進捗率	進捗状況	実績値	達成率	進捗率	進捗状況	累計/平均	達成率	進捗率	進捗状況	実績値	達成率	進捗率	進捗状況				成果
合計特殊出生率	-	1.65	1.65	1.60	26	年	1.60	毎年12月頃	1.58	98.8	-	順調	1.45	90.6	-	順調	1.67	104.4	-	達成	1.67 (H29)	104.4	-	達成	・各種施策の推進により、年によって増減はしているが、近年はほぼ横ばい状態である。	・子育てと仕事を両立しやすい環境の不足	・切れ目のない結婚、妊娠、出産、子育て支援施策の充実により、健やかに産み育てる環境づくりを推進する。	適
婚姻届出件数	件	561	561	590	26	年度	590	毎月	553	93.7	-	順調	553	93.7	-	順調	558	94.6	-	順調	475	80.5	-	概ね順調	・近年はほぼ横ばい状態であったが、平成30年度は減少した。	・出会いの場がなかったり、結婚という制度にとらわれない形の増加	・めぐりあいセッティング事業補助金の交付を通じ、出会いの場の機会を増やす。	適

■重要業績評価指標(KPI)

項目・指標等	基準数値概要						H31 目標数値	測定可能 頻度	H27				H28				H29				H30				課題または達成できない原因	今後の取組	指標の適否	
	単位	基準数値	計算基準	計算目標	基準年(年度)	年/年度			実績値	達成率	進捗率	進捗状況	実績値	達成率	進捗率	進捗状況	累計/平均	達成率	進捗率	進捗状況	実績値	達成率	進捗率	進捗状況				成果
婚活イベント開催数	回	5	5	10	26	年度	10	毎月	5	50.0	-	努力を要する	9	90.0	-	順調	6	60.0	-	努力を要する	8	80.0	-	概ね順調	・女性参加者集めが課題となっており、イベント主催者側の広報や運営の負担などがあり、開催数の減少や企画のマンネリ化につながっている。	・めぐりあいセッティング事業補助金の交付を通じ、出会いの場の創出を図るための事業を実施する団体に対し支援を行う。	適	
出生数	人	340	340	340	26	年	340	毎月	345	101.5	-	達成	298	87.6	-	概ね順調	337	99.1	-	順調	305	89.7	-	概ね順調	・各種施策を推進しているが、減少傾向にある。	・出生に関わる15歳～49歳の女子人口が減少していることが原因の一つと思われる。	・切れ目のない結婚、妊娠、出産、子育て支援施策の充実により、健やかに産み育てる環境づくりの実現を図る。	適
妊婦一般健康診査受診率	%	99.1	99.1	100.0	26	年度	100.0	毎年6月頃	99.7	99.7	-	順調	99.2	99.2	-	順調	99.1	99.1	-	順調	99.3	99.3	-	順調	・妊婦健診受診票交付時に、妊婦健診の早期受診について勧奨を行った。また、里帰り等で県外で受診した際は、健診終了後速やかに請求手続きを行っていただくよう勧奨に努めた。	・県外での妊婦健診を受けた者の把握が遅れる。	・受診票交付時に、早期の受診勧奨と県外で受診した場合の早期請求手続きを促す。	適
15歳以下の子がいる世帯の転入世帯数	世帯	105	105	110	26	年度	110	毎月	101	91.8	-	順調	106	96.4	-	順調	115	104.5	-	達成	109	99.1	-	順調	・微増傾向となっており、平成29年度と同程度の件数を維持できた。	・住みやすさや移住に魅力を感じる環境が不足している。	・子育て支援施策の推進を図り、子育て家庭にとって魅力のあるまちづくりを進める。	適
地域行事に参加している児童の割合(小学6年生)	%	91.9	91.9	91.9	26	年度	維持・向上	毎年11月頃	89.3	97.2	-	順調	90.4	98.4	-	順調	83.2	90.5	-	順調	81.7	88.9	-	概ね順調	・概ね目標値に近い進捗状況である。	・児童の健全育成に資する地域行事・活動への参加を促す。	適	
学校支援ボランティア数	人	319	319	350	29	年度	350	毎月	0	0.0	-	効果が現れていない	0	0.0	-	効果が現れていない	364	104.0	-	達成	370	105.7	-	達成	・地域社会全体で子どもと学校を支えるコミュニティスクールの取り組みを推進することができた。	・地域と学校が協働して子どもたちを育てる環境づくりを図る。	適	
外国語指導助手(ALT)配置人数	小学校	人	0	0	2	26	年度	2	年度当初	0	0	-	効果が現れていない	2	100.0	-	達成	2	100.0	-	達成	2	100.0	-	達成	・ALT2人を配置することにより、外国語教育を推進した。	・ALTを有効活用し、外国語教育の充実を図る。	適
	中学校	人	3	3	3	30	年度	3	年度当初	4	133.3	-	達成	4	133.3	-	達成	4	133.3	-	達成	3	100.0	-	達成	・ALT3人を配置することにより、英語力(話す力、聞く力)の向上に寄与した。	・ALTを効率的に配置し、英語によるコミュニケーション能力の育成を図る。	適
将来の夢・目標を持っている児童・生徒の割合	小学6年生	%	86.1	86.1	90	26	年度	90以上	毎年11月頃	85.6	95.1	-	順調	86.9	96.6	-	順調	88.3	98.1	-	順調	89.9	99.9	-	順調	・夢の教室(5年)を実施し、将来に夢や目標を持ち努力することの大切さや人の生き方を学んだ。	・児童が自己の将来の進路について考える契機となるようキャリア教育に関する事業を継続実施する。	適
	中学3年生	%	70.1	70.1	75	26	年度	75以上	毎年11月頃	73.7	98.3	-	順調	71.0	94.7	-	順調	74.1	98.8	-	順調	70.0	93.3	-	順調	・jobセミナー(1年)、職場体験(2年)、キャリア教育講演会(全学年)を実施し、働くことの喜びや大切さを学んだ。	・生徒が自己の将来の進路について考える契機となるようキャリア教育に関する事業を継続実施する。	適

【基本目標2】「故郷」のふるさとに住まう人口定着戦略 ～社会増の転換～

■基本目標

項目・指標等	基準数値概要						H31 目標数値	測定可能 頻度	H27				H28				H29				H30				課題または達成できない原因	今後の取組	指標の適否
	単位	基準数値	計画基準	計画目標	基準年(年度)	年/年度			実績値	達成率	進捗率	進捗状況	実績値	達成率	進捗率	進捗状況	累計/平均	達成率	進捗率	進捗状況	実績値	達成率	進捗率	進捗状況			
転入者(長野県「毎月人口異動調査」)	人	1,277	1,277	1,330	26	年	1,330	毎月	1,295	97.4	-	順調	1,246	93.7	-	順調	1,217	91.5	-	順調	1,361	102.3	-	達成	・各種施策を総合的に推進した。 ・転入者は増加したが、転出超過状態。 ・若年層の流出が問題である。	・20歳代の転出は今後も続く見込まれるため、Uターンを促進を図るとともに、新規就農や就労環境等引続き支援策を周知する。	適
住みよいと感じる市民の割合	%	74.8	74.8	85	27	年度	85以上	毎年10月頃	74.8	88.0	-	概ね順調	77.7	91.4	-	順調	79.5	93.5	-	順調	80.2	94.4	-	順調	・年々数値が向上している。	・引き続き市民満足度調査を行い、回収率向上の取組を検討する。	適

■重要業績評価指標(KPI)

項目・指標等	基準数値概要						H31 目標数値	測定可能 頻度	H27				H28				H29				H30				課題または達成できない原因	今後の取組	指標の適否
	単位	基準数値	計画基準	計画目標	基準年(年度)	年/年度			実績値	達成率	進捗率	進捗状況	実績値	達成率	進捗率	進捗状況	累計/平均	達成率	進捗率	進捗状況	実績値	達成率	進捗率	進捗状況			
地域ブランド調査認知度全国ランキング	位	842	842	500	26	年度	500	毎年10月頃	801	62.4	-	努力を要する	807	62.0	-	努力を要する	828	60.4	-	努力を要する	865	57.8	-	努力を要する	・各種フェア、大規模見本市等を通じ、「信州なかの」のブランド力向上を図った。(売れ農) ・中野市には魅力的な特産物や観光資源があるのに、メディア媒体を有効に活用してPR出来ていないのではないか。(政策情報課) ・一部消費者への周知にとどまっていることから、より多くの方へPRする必要がある。(売れ農)	・市としてシティプロモーションを専門的に実施できる体制(人員・部署)を構築してどうか(営業推進課) ・職員一人一人が広報パーソンという意識を高める必要があると思われる。(政策情報課) ・SNS等を通じ、より効果的な情報発信に努める。(売れ農)	適
空き家バンク登録物件への移住世帯数	世帯	-	0	5	-	年度	5*	毎月	1	20.0	-	順調	1*	20.0	努力を要する	1*	20.0	努力を要する	2*	40.0	努力を要する	・平成30年度 空き家バンク登録物件への移住世帯数1世帯	・空き家バンク登録物件自体が少ないこと、登録があっても市内の方にすぐ売れてしまうケースが多い	否			
CCRC整備区域数	区域	-	0	1	-	年度	1	年度末	-	-	-	効果が現れていない	-	-	-	効果が現れていない	-	-	-	効果が現れていない	-	-	-	効果が現れていない	・政策研究所で研究テーマに取り上げ、現在研究中。	・民間への方策、事業者誘致。	適
新規就農者数	人	25	25	120	26	年度	120*	毎年12月頃	15	12.5	努力を要する	40*	33.3	努力を要する	55*	45.8	努力を要する	86*	71.7	概ね順調	・平成30年度の新規就農者数は31人で、昨年度の15人を上回る結果となった。	・公式ホームページや広報誌等で支援策を周知していく。 ・関係機関と連携し、就農相談会へ積極的に参加する。	適				
30歳代の転入者数	人	279	279	299	26	年度	299	毎月	296	99.0	-	順調	329	110.0	-	達成	316	105.7	-	達成	333	111.4	-	達成	・移住相談窓口としては、仕事と住まいをセットにした移住提案ができていない。	・仕事と住まいをセットにした移住提案ができるような体制を構築していく。	適
市民手づくりコンサート開催回数	回	9	9	12	26	年度	12	毎月	5	41.7	-	努力を要する	5	41.7	-	努力を要する	8	66.7	-	努力を要する	7	58.3	-	努力を要する	・目標数には達しなかった。 前年度からの連続実施 4回 H30新規実施 3回	・単発の事業として実施する団体が多い。 ・過去に実施した団体に対し、再度周知を図る。	適
体育施設延べ使用人数	人	245,614	245,614	290,000	26	年度	290,000	毎月	252,690	87.1	-	概ね順調	239,557	82.6	-	概ね順調	237,939	82.0	-	概ね順調	232,900	80.3	-	概ね順調	・目標には達しなかった。 ・市営テニスコートのコート整備工事の影響や屋外施設での天候による利用減が考えられる。	・施設整備や器具の不具合を改修し、利用促進に努める。	適
中野陣屋県庁記念館、博物館の利用者数	人	49,209	49,209	50,000	26	年度	50,000	毎月	47,487	95.0	-	順調	47,262	94.5	-	順調	46,190	92.4	-	順調	47,500	95.0	-	順調	・平成30年度の2施設の入館者数 陣屋県庁記念館37,627人 博物館9,873人 計47,500人	・2施設の過去5年間の平均入館者数に1%の増加を見込んだ目標値を設定したが、来場者数は流動的である。 ・今後入館者が前年度対比1%の増加率を維持するように努める。(営業推進課) ・継続して取り組む(博物館)	適

※1 累計

【基本目標3】雇用創出と「信州なかの」ブランドをいかした産業振興戦略 ～労働と基幹産業の安定～

■基本目標

項目・指標等	基準数値概要						H31 目標数値	測定可能 頻度	H27				H28				H29				H30				課題または達成できない原因	今後の取組	指標の適否
	単位	基準数値	計算基準	計算目標	基準年(年度)	年/年度			実績値	達成率	進捗率	進捗状況	実績値	達成率	進捗率	進捗状況	累計/平均	達成率	進捗率	進捗状況	実績値	達成率	進捗率	進捗状況			
市内事業所就業者数	人	17,938	17,938	17,316	24	年	17,316	5年毎	-	-	-	実績値なし	18,232	105.3	-	達成	18,232 (H28)	105.3	-	達成	18,232 (H28)	105.3	-	達成	職業相談室の設置及び中野地域職業訓練センターの運行を行い、就労支援による就労率の向上を図った。	・引続き職業相談室の設置及び中野地域職業訓練センターの運行を行い、就労支援による就労率の向上を図る。	適
農業付加価値額	百万円	2,204	2,204	2,215	24	年	2,215	5年毎	-	-	-	実績値なし	5,391	243.0	-	達成	5,391 (H28)	243.4	-	達成	5,391 (H28)	243.4	-	達成	・多様なマーケティングの推進を図るため各種イベントを開催(174回)したほか、「稼ぐ農業」をめざし、関係機関と連携を図り、信州なかのブランド化を促進した。	・各種イベントの開催 ・6次産業化の促進 ・新技術の導入支援 ・遊休荒廃農地の解消	適

■重要業績評価指標(KPI)

項目・指標等	基準数値概要						H31 目標数値	測定可能 頻度	H27				H28				H29				H30				課題または達成できない原因	今後の取組	指標の適否		
	単位	基準数値	計算基準	計算目標	基準年(年度)	年/年度			実績値	達成率	進捗率	進捗状況	実績値	達成率	進捗率	進捗状況	累計/平均	達成率	進捗率	進捗状況	実績値	達成率	進捗率	進捗状況				成果	
イベントの開催及び出展回数	回	13	13	30	26	年度	30	毎月	25	83.3	-	概ね順調	56	186.7	-	達成	167	556.7	-	達成	174	580.0	-	達成	・イベントの開催及び出展を通じたことで、「信州なかの」ブランドの周知を図った。	シンボルマーク活用事業者と連携し、イベント及び出展を実施することで、引き続き「信州なかの」ブランドの周知に努める。	適		
6次産業化事業計画認定件数	件	5	5	7	26	年度	7*	毎月	5		71.4	順調	5*		71.4	順調	5*		71.4	順調	5*	71.4	概ね順調	新規認定事例がなかった。	・認定のメリットが限定されている。 ・計画作成に手間がかかる。	・農業者に対し、認定のメリットを広報誌等で積極的に周知する。 ・計画作成時の支援内容を検討する。	適		
新技術確立件数	件	7	7	15	22～26期計	年度	15*	年度末	2		13.3	努力を要する	4*		26.7	努力を要する	6*		40.0	努力を要する	6*	-	40.0	努力を要する	・新技術を導入するにあたり、充実した農業用機械・設備、または技術を習得することができている。	・新技術であるかどうかの判断が難しい。	・市内農協と連携し、農業者に対し新技術導入への意欲を喚起する。	適	
遊休荒廃農地面積	ha	542	542	540	30	年度	540	年度末	454	99.3		努力を要する	569	79.3		努力を要する	542	104.4		達成	536	100.7		達成	・遊休荒廃農地面積が6ha減少した。	・引き続き遊休荒廃農地再生に補助金を交付することなどにより、遊休荒廃農地解消を図る。	適		
歩行者通行量(市街地10カ所)	日曜	人	1,659	1,659	1,744	26	年	1,744	毎年10月頃	936	53.7		努力を要する	1,257	72.1		努力を要する	1,582	90.7		順調	1,408	80.7	-	概ね順調	・一時的な増減があるものの、ここ数年減少傾向が続いている。	・調査地点によっては減少しているところもあり、中心市街地全体でより一層の取り組みを行っていく。	・関係者の意見を聞きながら、活性化の方策について検討を行っていく。	適
	平日	人	3,283	3,283	3,450	26	年	3,450	毎年10月頃	2,622	76.0		努力を要する	3,483	101.0		達成	2,491	72.2		順調	2,287	66.3	-	努力を要する	・ここ数年減少傾向が続いている。	・郊外への大型店の進出等により、市街地の通行量が減少している。	・関係者の意見を聞きながら、活性化の方策について検討を行っていく。	適
特定専門家セミナー開催数	回	-	0	4	-	年度	4	毎月	1	25.0		努力を要する	1	25.0		努力を要する	7	175.0		達成	5	125.0	-	達成	・中小企業診断士による創業塾を8/18、25、9/1、8、15に開催し、市内外から延べ56人の参加者があった。	・創業塾の開催により、創業に対する興味、知識の習得は得られた。	・創業塾を継続し、創業者を増やしていく。	適	
学校給食での地元産食材使用率	%	57.1	57.1	65.0	26	年度	65.0	毎月	64.0	98.5	-	順調	63.1	97.1	-	順調	59.0	90.8	-	順調	61.8	95.0	-	順調	・食材の提供期間の延長や種類の増など、生産者の努力と地域食材を利用した献立の工夫により、概ね目標に近い数値を得ることができた。	・昨年同様に、途中まで順調に推移していたが、天候不順の影響等により、目標達成に至らなかった。 また、来年度は、近年の食材使用状況を加味して、対象の食材31品目の内容変更を検討したい。	・今後も、生産者への地元産食材の安定提供に向けた取り組みを進めていこうと共、献立への利用推進に努める。	適	
空き家・空き店舗を活用した創業者数	件	-	0	2	-	年度	2	毎月	5	250.0		達成	0	0.0		努力を要する	2	100		達成	1	50.0	-	努力を要する	・新たに1事業者に店舗改修等支援事業補助金を交付した	・空き店舗には住宅を兼ねた物件も多くあり、その場合に店舗部分だけを貸すことは現実的に容易ではない	・商工会議所等と協力し、空き店舗調査や創業者支援を進めていく。	適	
女性のための就職支援事業を活用した女性の就業率	%	-	0	30.0	-	年度	30.0	年度末	33.3	111.0		達成	28.6	95.3	-	順調	67.0	223.3		達成	42.0	140.0	-	達成	・H30より受講対象者年齢を50歳未満に引上げ、母親に限らず広く女性を募集して、就労へ繋げる支援講座を開催した。	・求職の高い職種への支援講座を進めていく。	適		
シルバー人材センター会員数	人	753	753	791	26	年度	791	毎月	710	89.8	-	概ね順調	679	85.8	-	概ね順調	645	81.5		順調	664	83.9	-	概ね順調	・働く意欲のある高齢者が就労により、生きがいの充実、健康の維持、地域社会への貢献を担うことができた。	・定年延長や再雇用などの影響により、新規加入会員が減少傾向である。	・会員ひとり1会員活動を行いたい。	適	
地域ブランド調査観光意欲度全国ランキング	位	685	685	400	26	年度	400	毎年10月頃	641	62.4	-	努力を要する	639	62.6	-	努力を要する	621	64.4	-	努力を要する	618	64.7	-	努力を要する	・観光宣伝を行っているが、観光意欲度向上に結び付いていない	・地域の特性を生かした観光宣伝を行っていく必要がある	・地元の特性を生かした観光事業を企画し、ホームページ等で情報発信していく。	適	
観光地利用者延べ人数	万人	52	52	54	26	年	54	毎年10月頃	51	94.4	-	順調	50	92.6	-	順調	50	92.6	-	順調	48	88.9	-	概ね順調	・例年ほぼ横ばいの数値で推移している。	・既存の観光施設の効果的なPR及び活用方法をさらに検討していく必要がある。	・中野市での滞在、回遊時間を増やすために斬新なスタンプラリーの設定等新たな仕掛けが必要。	適	
中野市版DMOの設立		-	0	1	-	年度	設立	-	0	0.0		効果が現れていない	0	0.0		効果が現れていない	0	0.0		効果が現れていない	0	0.0	-	効果が現れていない	なし	・DMOは1つの市でなく、広域の市町村、事業者、各種団体等が連携し、立ち上げる組織であるため。	・一般財団法人信州なかの産業・観光公社、事業者、各種団体、市等が一体となって観光事業を行う体制づくりを協議する。	否	

※1 累計

【基本目標4】確かな暮らし実現戦略 ～安心安全・健康長寿のまちづくり～

■基本目標

項目・指標等	基準数値概要						H31 目標数値	測定可能 頻度	H27				H28				H29				H30				課題または達成できない原因	今後の取組	指標の適否		
	単位	基準数値	計算基準	計算目標	基準年(年度)	年/年度			実績値	達成率	進捗率	進捗状況	実績値	達成率	進捗率	進捗状況	累計/平均	達成率	進捗率	進捗状況	実績値	達成率	進捗率	進捗状況				成果	
健康寿命	男性	歳	79.75	79.75	平均寿命の増加分を上回る健康寿命の増加	25	年度	平均寿命の増加分を上回る健康寿命の増加	毎年10月以降	80.22	85.5	-	概ね順調	80.50	91.5	-	順調	80.36	84.7	-	概ね順調	80.36 (H29)	84.7	-	概ね順調	・糖尿病重症化予防プログラムを継続し、重症化の防止を推進するとともに、運動習慣のきっかけづくりとなるウォーキングサークル事業「食と健康に関する共同啓発」を実施した。	・高血圧、糖尿病、脂質異常の発症と重症化を防止する。 ・若年世代からの減塩や栄養のバランスなどの食意識、運動習慣の意識の向上を図る。	・運動習慣のきっかけづくりのほか、栄養バランス等食意識の向上をさせるため、店舗と共同啓発を行う。 ・若年世代からの減塩や栄養のバランスなどの食意識、運動習慣の意識の向上を図る。 ・出前健康講座など健康づくりの情報提供を行う。	適
	女性	歳	84.78	84.78	平均寿命の増加分を上回る健康寿命の増加	25	年度	平均寿命の増加分を上回る健康寿命の増加	毎年10月以降	84.15	87.5	-	概ね順調	84.16	91.2	-	順調	84.02	117.1	-	達成	84.02 (H29)	117.1	-	達成			適	
小さな拠点の形成	箇所	-	0	1	-	年度	1	年度末	-	-	-	効果が現れていない	-	-	-	効果が現れていない	-	-	-	効果が現れていない	1	100.0	-	達成	・キックオフイベントを開催し、「とよたふるさとカフェ」の開設、講演会の実施、地域運営協議会を発足した。	・活動の方向性の決定、部会の発足	適		

※1 累計

■重要業績評価指標(KPI)

項目・指標等	基準数値概要						H31 目標数値	測定可能 頻度	H27				H28				H29				H30				課題または達成できない原因	今後の取組	指標の適否		
	単位	基準数値	計算基準	計算目標	基準年(年度)	年/年度			実績値	達成率	進捗率	進捗状況	実績値	達成率	進捗率	進捗状況	累計/平均	達成率	進捗率	進捗状況	実績値	達成率	進捗率	進捗状況				成果	
介護予防教室述べ参加者率	%	75	75	85	29	年度	85	毎月	4,660	80.3	-	概ね順調	5,700	89.2	-	概ね順調	78	91.6	-	順調	70.3	82.7	-	概ね順調	・参加者数の増加及び心身機能の維持・向上が図られた。また、教室終了後も運動継続できるよう自主グループ活動の育成もできた。	・効率的かつ継続可能な教室内容の検討。	・引続き参加者(特に新規)増加に向けた取組みと効果的な介護予防を推進する。	適	
入所している障がい者の福祉施設から地域生活への移行者数	人	0	0	6	26	年度	6	毎月	2			33.3	順調	3		50.0	順調	3		50.0	概ね順調	3		50.0	努力を要する	・自立支援協議会を中心として地域生活移行への調査等を行うが、個人ニーズが生活移行の域まで達していないため	・個別のニーズ調査・把握を行い、継続して調整を行う。	適	
地域医療従事医師奨学資金貸付者で北信総合病院に勤務した医師数(※3)	人	3	3	6	制度開始からの延べ人数	年度	6	毎月	3			0.0	努力を要する	3		0.0	努力を要する	5		66.7	順調	5		66.7	概ね順調	・貸付者のうち、新たに北信総合病院に勤務した医師は1人であった。	・都合により北信総合病院への勤務を猶予するケースが少なくない。	・北信総合病院と連携し事業を実施していく。	適
「中野市すぐメール」の登録数	件	-	0	4,291	-	年度	4,291	毎月	807			18.8	概ね順調	1,752.0		40.8	順調	2,413		56.2	概ね順調	2,699		62.9	努力を要する	・気象注意報の自動配信、防災行政無線情報の自動連携配信を開始し、サービス充実を図るも登録者数増につなげることができなかった。H29実績2413件。	・配信情報を緊急・啓発情報に限定していること、受信端末を所有している年齢層が必要とする情報の把握ができていないこと。	・登録促進のための広報を効率よく実施する。 ・市民が必要とする情報を見極め、担当部署へ配信を促す。	適
自主防災組織の組織率	%	39.5	39.5	47.4	26	年度	47.4	毎月	39.5	83.3	-	概ね順調	39.5	83.3	-	概ね順調	42.1	88.8	-	概ね順調	43.4	91.6	-	順調	・組織設立に向け、計15区で説明会等を実施し、住民の意識の向上が図られた。	・区によって組織設立に向けた意識に温度差がある。	・引き続き、組織設立に向けた意識の向上を図る。	適	
1日あたりふれあいバス利用者数	人	14	14	31	26	年度	31	毎月	14.2	45.8	-	努力を要する	24	77.5	-	努力を要する	31.6	101.9	-	達成	34.8	112.3	-	達成	・無料デーの実施の成果もあり、目標を上回る成果が得られた。		・引き続き利用促進に向けたPRに努める。	適	
新幹線飯山駅の1日平均乗車数	人	500	500	1,300	開業後1カ月の日平均	年度	1,300	要確認	504	38.8	-	努力を要する	519	39.9	-	努力を要する	550	42.3	-	努力を要する	567	43.6	-	努力を要する	・近隣市町村が連携し、生活基盤の整備、広域観光の促進等を推進するため、北信地域定住自立圏第二次強制ビジョンを改正し、第3版を作成した。	・2次交通や観光利用だけではなく総合的に検討する必要がある。	・近隣市町村が連携し、生活基盤の整備、広域観光の促進等を推進する。	適	
姉妹都市等との連携によるイベント数	回	6	6	12	26	年度	12	毎月	6	50.0	-	努力を要する	14	116.7	-	達成	5	41.7	-	努力を要する	6	50.0	-	努力を要する	・官民協働で都市交流の連携を図った(営業推進課) ・姉妹都市等で開催されるイベントに出店し、連携を図るとともに、「信州なかの」ブランドの周知を図った。(売れ農) ・マンネリ化しないよう新たな交流スタイルを追求する必要がある。(営業推進課) ・新規に開催されるイベントはほとんどなく、出店する機会が限られていた。また、当事開催のイベント等の日程と重なることもあり、連携イベント数の減少に繋がった。(売れ農)		・引き続き、官民協働による市民交流の場を提供する。(営業推進課) ・姉妹都市等で開催されるイベントに継続して出店し、連携を促進する。(売れ農)	適	
中野市関連フェイスブック登録者数	件	879	879	3,000	26	年度	3,000	毎月	1,586	52.9	-	努力を要する	1,943	64.8	-	努力を要する	2,748	91.6	-	順調	3,141	104.7	-	達成	・登録件数が増えている(選挙管理委員会部分でH30実績は100件から107件)ので、選挙等に関心をもってもらうことができたと思われる。(選挙) ・中野市に協力隊がいることや隊員の活動に関心を持ってもらった。(地域振興課) ・定期的な情報発信を通し、「信州なかの」ブランドの周知を図った。(売れ農) ・継続的な運用を通じて一定の集客、認知促進、ファンの育成につなげることはできた。(庶務課)	・H28参院選後の市民満足度調査では、投票しなかったが18.4%で、その理由に用事があったとして27.5%という結果だった。投票当日に用事があっても投票ができる方法の周知啓発が課題。(選挙)	・今後も一層、細やかに情報発信に努める。(中山晋平) ・情報発信に努める。(高野辰之) ・市民満足度調査では、投票率の低下について政治に無関心、投票しても政治がよくなると思わない、政治への不満・不信などの割合が多く、理由として生活に関係ない、個人の意見は政治に影響しないと思っている割合が多かったことから、政治と生活や個人の意見は関係があることを啓発していく必要がある。関係機関と連携等工夫をする中で選挙啓発を行う。(選挙) ・効果的に活用するため今後も継続的に運用し、各種アクションについて測定することで認知拡大を目指す必要がある。(庶務課)	適	

※3 制度開始から延べ人数

※1 累計